

厚別東まちづくりセンターだより

9

2007年1月発行 厚別東まちづくりセンター
(厚別東4条4丁目9-3 897-2885)

明けましておめでとうございます

昨年は、大変お世話になりました。

今年は、亥年。猪のエネルギーを少し分けてもらい、いい意味での“猪突猛進”の気概で、さらに住みよい地域づくりを目指して突き進んでいきたいと思えます。

本年もお力添えを、よろしくお願いいたします。



高木連絡員 森下所長 西條連絡員

地域の防災対策を考える講演会を開催

11月21日(火)午後6時から小野幌会館で今年度2回目の厚別東地区各種団体交流会・まちづくり会議が開催され、27団体などから77人が参加しました。今回は、「災害を知るまちを知る人を知るDIGの手法」をテーマにした講演会。

北海道教育大学札幌校の佐々木貴子先生を講師としてお招きし、地域の防災対策を考えるうえで、効果的な手法として注目を集めている災害図上訓練(DIG)についてお話を伺いました。



自助、共助の重要性について具体的な例を挙げながら説明される佐々木先生

各種団体交流会・まちづくり会議

災害図上訓練(DIG)って何？



青葉地区で行われたDIGの様子

災害図上訓練(DIG)とは、Disaster(災害) Imagination(想像力) Game(ゲーム)の頭文字をとったもので、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。

地域の地図を囲んで、災害が起きたときに危険なところはどこか、必要なものは何か、何をしなければならないか、などをみんなで話し合うことで、参加者の防災意識が高まるとともに、今まで気づけなかった地域の現状を再認識できます。

裏面に続きます。

地域の防災力を高めるためには

佐々木先生のお話のポイントを一部紹介します。

『「いざ」は「普段」なり』の言葉のとおり、いざというときのために普段から備えておくこと、地域の人間関係をつくっていくことが大事である。

阪神淡路大震災では、消防などに助けられた人は、わずかに 1.7 パーセント。ほとんどの人が自力か家族、隣人に助けられている。いざというとき、公助はあてにならない。自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守るといのが基本になる。

単位町内会ごとに作られている自主防災組織を小学校単位（避難所単位）にするなどの見直しも必要ではないか。

小学校高学年や中学生は救出救護などの力になる。子供たちを町内会活動にどんどん巻き込んでいくことが重要である。

D I G は、自分たちのまちを知るための道具、手段である。自分たちの地域が災害に強い人間関係のまちになっているかどうかを、D I G を使いながら見てみてはどうか。



いざというときのために、参加者も真剣な表情で講演に耳を傾けました

今回の講演を受けて、まちづくり会議では、今後、災害図上訓練（D I G）の実施に向けて、検討していく予定です。

代表者会議を開催しました

これまで、まちづくり会議での意見交換などを通じて地域の防犯パトロールの取り組みが拡大するなど、徐々にまちづくりの成果が現れています。しかし、少子高齢社会が進む中、地域を取り巻く課題が深刻化しているのも事実です。

そこで、今後一層、厚別東地区を住みよい地域とするため、1月16日（火）午後1時30分から小野幌会館に27団体の代表者が集い、平成19年度のまちづくり会議の進め方について意見交換を行いました。会議の内容については、次号で紹介します。

これからの主な予定

2月11日（日）10：00	厚別東地区演芸大会（小野幌会館）
2月14日（水）13：30	健康づくり教室「ヨガ体験」（小野幌会館）
2月25日（日）10：00	厚別東地区スノーフェスティバル（吉村農園）
3月 4日（日）10：00	冬のウォッチング（野幌森林公園）

厚別東地区のホームページ（イベント等の情報が満載です。）

アドレス <http://www.community.sapporocdc.jp/city/atsu-higashi/>